

伝統的民家

大きな特徴は、**黄土色の土壁**と**縦長の窓**が連続してみられることです。2,3階の窓は、半間から1間間隔に立つ柱のため、半間幅の縦長となるものが多いのです。また、薪などの出し入れのため、玄関の2階部分に**大背戸**といわれる出入口を設けているのも特徴のひとつです。**仏壇出し**は、仏壇の上を人が踏まないように妻側背面に出しを付け、火事のときに仏壇を直接外へ運びだすためのものです。今は、少なくなりましたが、年中大梯子を屋根にさしかけておくのも特徴的です。



特徴的な土壁と縦長の窓



大背戸

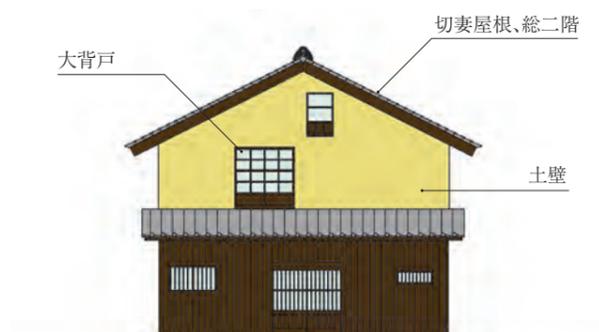


仏壇出し

伝統的白峰型住宅イメージ図



主屋 平側立面図



主屋 妻側立面図

白峰の四季とイベント



ミズパセリ



かんこ踊り(白山まつり)



林西寺観音



雪だるままつり

若葉まつり (5月下旬) …ようやく訪れた春を喜び合うイベントです。採れたての山菜や特産品の屋台が並びます。

白山まつり (7月中旬) …越前の僧泰澄が白山を開山されたことを起源とします。白山から無事下山された泰澄に歓喜して、村人が舞い踊った「かんこ踊り」(県指定無形民俗文化財)を踊ります。

奉納相撲 (9月第2土曜日) …八坂神社の秋祭りに行われる100年以上の歴史がある相撲大会です。日本相撲協会も認定する由緒ある行事で、花相撲や役相撲など迫力満点です。

白山白峰温泉まつり (11月中旬) …絹肌の湯に浸かり、温泉水を使った名物を食べて、体の外から中からあったかになる日。

雪だるままつり (1月下旬～2月上旬) …豪雪に生きる人々が雪で楽しもうとするまつりです。各家の前には、かわいらしい雪だるまが並びます。夜になると一斉にろうそくが灯され、幻想的な雰囲気になります。名物の食べ歩きも楽しみの一つです。

交通のご案内

◎福井北ICから約1時間

◎白山ICから約1時間



お問い合わせ 白峰観光協会案内所

☎076-259-2721

豪雪にいきる、

重要伝統的建造物群保存地区
白山市白峰

土壁と縦長窓の家。



白山市白峰は、日本三名山のひとつ白山の麓、冬の積雪が4mを超える日本屈指の豪雪地帯に位置し、雪とともに生きる独特の生活様式を生み出してきました。

白峰(しらみね)のはじまり

白峰周辺で発掘された遺跡などから、縄文時代中期(約4500年前)には人々が住んでいました。前に手取川をひかえ、後ろには小高い山々が連なるものの平坦地が多く、南向きで日当たりが良く水害の恐れがない高台(河岸段丘面)に集落が作られました。その後、養老元年(717)に越前の僧泰澄によって「牛首(うしくび)」と呼ばれる現在の白峰集落の中心となる村が開かれたと伝えられています。

幕府直轄の地(天領)の時代

戦国時代に、白山麓の中心である白峰を治めていたのは加藤藤兵衛という土豪です。慶長6年(1601)に越前国守より正式に白山麓十六ヶ村を治めるようにといわれました。しかし、白山麓では、白山山頂での経済活動の権利を巡り越前・加賀・美濃の麓の村々で争いが古くからありました。そこで寛文8年(1668)には、尾添谷の二村を加えて十八ヶ村が幕府直轄地(天領)となり、白峰の中心にある山岸十郎右衛門家が、幕府の命により明治維新までの代々、この地をあずかってきました。

白峰の主な生業と集落の発展

白峰は、周囲を山々に囲まれた豪雪地帯で、稲作はほとんど行われていません。江戸から明治期には、全国有数の養蚕の生産を誇り、その収入により生活に必要な日用雑貨や海産物を手に入っていたようです。

白峰の町並みの最大の特徴は、山村でありながら建物が密集して町場のような景観を形成していることです。

明治中期の紀行文では、白峰について、「2階建てや3階建ての巨大民家500軒以上が軒を並べている」「製糸業が盛んで、警察分署、登記所、宿、料理店、雑貨店、飲食店、呉服屋、芸妓、消防の施設など様々な施設がある。」と記し、山あいとは思えない集落の賑やかさを称(たた)えています。



越前白山真景図(1837年) 徳島県立博物館所蔵

1 KURAMACHI

蔵町 白峰は、土蔵があまりない地域ですが、この一角は、クラマチと呼ばれ蔵が数棟集まっており、火除け地的な機能も兼ね備えています。隣接した幅2m程の道は、近世の幹線道路、加賀往来をそのままの幅で残していると推定されます。

集落内は、家が密集するため、かつては昼夜問わず10回以上の火の用心の巡回をしたそうです。



2 YOHEI



与平 江戸時代の建築で、通称「与平」と呼ばれています。外からは、仏壇出しや大梯子(おおばしご)がみられ、中に入ると「少し昔」の生活様式が保たれています。



現在は、NPO法人白山しらみね自然学校が活動拠点としており、白峰の生活・文化・自然体験・白山登山等のプログラムの企画やガイドを行っています。屋内には民具が展示され、囲炉裏や地下貯蔵用の室(むろ)も見ることが出来ます。見学は、要予約。TEL 076-259-2191



3 4 RINSAIJI & YASAKAJINJYA

林西寺と八坂神社 林西寺は、文久3年(1863)に永平寺宮大工により建てられ、大正13年に屋根を小羽(こば)葺きから瓦葺きにしました。境内は当時、学校の運動場について広く、かつては、葬儀の場であり「じゃあど(浄土)」と呼ばれ、盆踊り、物々交換の場所としても利用されていました。八坂神社は、白山を開山した僧泰澄が薬師如来をまつたことが始まりとされています。古くは薬師社、牛首社とも呼ばれていましたが、明治初期の神仏分離の際に八坂神社と改称しました。



白山本地堂
十一面観世音菩薩立像(国指定重要文化財)をはじめとした白山信仰の歴史を今に伝える下山仏7体と泰澄大師坐像が安置されています。(8:30~16:30、火曜定休/一般400円、小中学生200円/TEL 076-259-2648)



5 GYOKANJI kuri

行勸寺庫裏 白峰に残っている唯一の小羽(こば)葺き屋根です。厚さ2.5cm、幅15~30cm、長さ50cmの腐りにくい栗板が使われています。毎年、梅雨前に表面を掃いて天日で乾かし、裏表をひっくり返す「くれ返し」が行われます。また、冬の積雪時でも仏事のふれ太鼓が聞こえるように、屋根には太鼓堂があります。



も仏事のふれ太鼓が聞こえるように、屋根には太鼓堂があります。

6 YAMAGISHIKE

山岸家 代々十郎右衛門を襲名し、幕府領(天領)である白山麓十八ヶ村の事務を司ってきました。現在でも当時の母屋、土蔵、石垣、庭等が残され、白峰の町並みの大きな核となっています。母屋は江戸時代の建築で、2,3階では養蚕が行われていました。屋根の中央には小さな屋根のついた煙出しがありましたが、平成6年に小羽板と厚さ40cmもの置土を落とし、瓦葺きにしました。



重要伝統的建造物群保存地区

7 YUKIDARUMA cafe

雪だるまカフェ 明治初期に建てられたもので、玄関の上には、外から直接、薪等を搬入する入り口(大背戸)のあるのが特徴です。今は、古民家カフェとして白峰で古くから受け継がれてきた伝統食や、雪だるまのオリジナル商品を提供しています。



8 9 ISHIDUMI & KOMICHI

石積みと小道 地区のほぼ全域で見られますが、社寺仏閣周辺で見られる高度な技術を要するものから一般的な野面積(のづらづみ)まで時代や財力などが反映されています。特に行勸寺以南は、傾斜地のため敷地は石積みで造成されており、東西への小道は、石段として今でもあちこちに残されています。



10 MINJYA

ミンジャ(水屋) 元来飲料水に乏しい白峰において、土豪の加藤藤兵衛が元禄3年(1617)に、苦心して1キロ上流の明谷川より水を引きました。この用水は、「ミンジャ」と呼ばれ、昭和31年に簡易水道が出来るまで300年余り使われていました。

白山ろく民俗資料館

伝統的な民家(江戸~明治時代)6棟が移築されています。白山のふもと、厳しくも豊かな自然のなかで培われた山村文化を伝える資料も展示しています。(9:00~16:00、木曜定休/一般250円、高校以下無料/TEL076-259-2665)



景観に配慮した商業施設など

